

令和3年度有識者懇談会でのご意見と対応状況

資料3

業務	R3意見	発言者	R4の対応状況と今後の方針
施設運営	他の伝承施設もできてきており、伝承館で答えられない部分を補完するような連携も必要。	前川	例えば原発事故や廃炉の状況をもっと詳しく知りたいという来館者には東電の廃炉資料館を紹介している。浜通りには様々な施設があり、それぞれ強みがあるので、連携してニーズに応えていきたい。
施設運営	宮城県や岩手県の伝承施設との連携もあっていい。	小沢	宮城県気仙沼の伝承館の館長を当館の語り部研修の講師に招いたり、岩手県で開催された語り部サミットに当館職員が登壇するなど連携を深めている。今後も県内外の伝承施設と連携していきたい。
施設運営	資料閲覧室の充実を図ってほしい。	前川	インターネットで図書検索ができるようにするとともに、HPに図書寄贈の依頼を掲載した。現在1,900冊を所蔵しており、引き続き充実を図っていく。
展示	最後のイノベ構想は唐突な気がした。事故から何を学んだのか、その教訓を活かしてイノベ構想は何を大切にしているのか伝わってこないといけない。	前川	イノベ構想とは何かを来館者に知っていただくため、イノベコーナーにイノベ構想関係のパンフレットをまとめて配置した。 復興に向けた様々な取組が進められており、そこで取り組んでいる人たちの思いや今後の展望も含めて、第5ゾーン「復興への挑戦」の展示は大きく見直す必要があると考えている。見直しの内容と時期について、福島県と相談しながら検討していきたい。
展示	県内各地で復興に向けて奮闘している人がどんな未来を目指しているのかが見えた方がいい。	丹野	
展示	イノベ構想の展示について、構想が先にあったのでは意味がない。地域の人の営みや努力を支えるのがイノベ構想。	小野	
展示	最後のイノベ構想の展示が、前の展示と滑らかにつながる必要がある。	小沢	
展示	なりわいが消失したことが分からないとイノベ構想の全体像は見えない。	小沢	
展示	ここで完結させようとするのではなく、展示を見た人が何を考えるか、問題提起の方向に結びつく情報であることが大事ではないか。	青木	当館の展示について、この地で起きたこと・今起きていること、住民が経験したこと・今取り組んでいることを事実ベースでしっかりと伝えることを心がけていきたい。
展示	ふるさと創造学の成果物を最終的には伝承館で展示するのもいいのではないか。	丹野	復興に向けた様々な取組が進められており、第5ゾーン「復興への挑戦」の展示を大きく見直す必要があると考えている。その中で、ふるさと創造学の展示も検討していきたい。

業務	R3意見	発言者	R4の対応状況と今後の方針
展示	原子力災害が継続している中、中間貯蔵施設や帰還困難区域、処理水などについてどのように展示していくのか。	小野	今年度は特定復興再生拠点区域が3町村で解除され、各町村の協力を得てパネル展を実施した。これから3月末には浪江町、4月以降も富岡町、飯館村で解除が予定されているので、各町村の協力を得て同様にパネル展を実施したい。一方、処理水など原発関連の最新情報を正確かつタイムリーに展示していくことは難しいため、廃炉資料館を紹介するなど、他施設と連携することで対応していきたい。
展示	高校などでは探求学習を進めている。子どもたちの多様なアプローチと連携し、展示に生かしていければいいのではないか。	丹野	県の語り部育成事業で、多くの高校生が伝承館で語り部を聴講している。その後のような学習に結びついたかなど、調査研究及び展示に活かすことを検討していきたい。
展示	対話型・双方向型のイベントや展示があるとよい。	丹野	研究事業の一環で、開沼上級研究員とゲストが参加者と一緒に対話するイベント「対話福島2023」を3回開催した。あえて答えを出そうとせず震災や福島のことを語り合った。このような双方向型の取組を大事にしていきたい。
展示	VRで仮設住宅の様子を体験するなど、映像技術をもっと活用してほしい。	丹野	今後、新しい技術を活用した展示方法を検討していきたい。今年度はVRで館内を紹介する動画をYouTubeで公開した。
語り部	様々なところで語り部の育成講座がありもったいないので、各団体がコラボできたらより有効的だと思う。	青木	今年度福島県が県内の語り部団体の連携強化を目的として「ふくしま震災語り部ネットワーク」を組織し当館も参加している。当ネットワークで語り部育成の共通プログラムを次年度作成すると聞いており有効に活用していきたい。
研究	研究をすることと人々の暮らしがどう繋がっていくのかがもう少し見えてきた方がいい。	青木	当館の研究を来館者に知っていただけるよう、次年度以降、研究内容や成果を展示に反映できるよう検討していきたい。
誘客	団体・学校は秋に集中するため、それ以外の時期に一般の入館者をどのように呼び込むか。民間が行う柔らかな企画をもっと活性化させるなど工夫を重ねることで入館者も伸びていく。	小野	今年度は新型コロナの行動制限がなかったため、この1年間の来館者が今後の基準になると考えている。秋のハイシーズン以降、12月～2月が特に来館者が少なかった状況であり、来館者を呼び込む方法を検討していきたい。
誘客	例えば富岡の桜の名所に来る人に呼びかける等、周辺の観光スポットと連携して発信してはどうか。	小野	連携の1つとして、4月以降いわきFCと連携し、サッカーの試合を観に来た方に来館を促す仕組みを検討している。